

令和7年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者

〔個人〕・・・2名

じょうのり ひで お
上乘 秀雄ほうすぐんのとちよう
(石川県鳳珠郡能登町)ひおき よしゆき
日置 佳之とっとりし
(鳥取県鳥取市)

〔団体〕・・・11団体

きた か たしりつかみさんみやしょうがっこう
喜多方市立上三宮小学校きたかたし
(福島県喜多方市)かぶしきがいしゃ ふじおかじぎょうしょ
株式会社チノー藤岡事業所ふじおかし
(群馬県藤岡市)とくてい ひ え いりかつどうほうじん わ こう みどり わ みず かい
特定非営利活動法人 和光・緑と湧き水の会わ こう し
(埼玉県和光市)よこかわざんうんえいいいん かい
横川山運営委員会おかやし
(長野県岡谷市)とくてい ひ え いりかつどうほうじん もり たかつき
特定非営利活動法人 森のプラットフォーム高槻たかつきし
(大阪府高槻市)あすかさとやま
飛鳥里山クラブたかいちぐんあすかむら
(奈良県高市郡明日香村)ひがしひろしましりつ たかみ おかちゅうがっこう
東広島市立高美が丘中学校ひがしひろしまし
(広島県東広島市)えひめけんりつかみうけなこうとうがっこう
愛媛県立上浮穴高等学校かみうけなぐんくまこうげんちよう
(愛媛県上浮穴郡久万高原町)やまでらがわ かい
山寺川をきれいにする会きたきゅうしゅうし
(福岡県北九州市)けやき どの はってんきせいかい
けやき通り発展期成会ふくおかし
(福岡県福岡市)すいげん もり しみん かい
水源の森づくりをすすめる市民の会みやざきし
(宮崎県宮崎市)

じょうのり ひで お
上 乗 秀 雄

ほうすぐんのとちょう
石川県鳳珠郡能登町

＜功績の概要＞

同氏は、教師の職を退いた後、平成 20 年から耕作放棄地や放置山林を取得し、無料開放型の自然体験施設「ケロンの小さな村」や「ケロン子ども森の学校」として再整備し、地域の「里山づくり・森づくり」を継続してきた。同施設には、県内外から年間 5,000 人を超える来訪者があるほか、地元高校の学習の場となるなど、緑化意識の醸成や地域の活動の場の創出に貢献している。

これまでに再整備した土地は約 1.5ha に上り、自作の遊具やツリーハウス、子どもの遊び場、工作体験の場を整えとともにサクラの植樹による「ケロンの森の頂上桜回廊」の整備にも取り組んでいる。毎年、夏と秋に開催される木工教室や自然教室には、県下全域からの参加者があり、能登地域の情報発信や賑わい創出に貢献している。また、地元高校の林業学習として、森林の手入れやシイタケの原木づくりなどの実習を受け入れるほか、地元保育所の園児による花の植栽やモミジの植樹活動も行っている。

同氏の活動により、かつての荒れた田畑や山林は、子どもの歓声が聞こえる場へと姿を変えており、環境保全や緑化意識の醸成のみならず地域活性化にも貢献している。さらに、令和 6 年能登半島地震の被災後も施設の復旧に尽力し、活動を継続するなど、その功績は高く評価されるものである。

ひ お き よ し ゆ き
日 置 佳 之

と っ と り し
鳥 取 県 鳥 取 市

＜功績の概要＞

同氏は、鳥取大学教授としての豊富な専門知識と経験を基に、鳥取県及び岡山県を中心としたフィールドで自然環境の保全再生や生物多様性の向上を目的とした調査・研究活動等を実施するほか、人材育成にも尽力し、地域の緑化推進に貢献している。

調査・研究活動の成果は、^{だいせん お き}大山隠岐国立公園内の^{ひるぜん}大山蒜山地域をはじめとする中国山地の半自然草原や湿原の再生計画立案に活用されている。また、「蒜山自然再生協議会」の会長として、再生計画を市民参加型の作業として実践する手法を確立し、各地で展開するなど、自然環境の保全再生や生物多様性の向上等に貢献している。さらに、他団体が実施する自然再生プロジェクトへの協力や、野外活動での指導を通じた人材育成も積極的に実施している。

同氏が自然再生事業を手掛けた鳥取県立大山オオタカの森では、林業と猛禽類の共存を目指した森林計画の立案とその実践に取り組んでいる。さらに、^{はとがはら}蒜山高原鳩ヶ原草原及び周辺湿原では、山焼きや草刈り等による半自然草原の維持と希少な植物等の保全及び生育環境の改善による湿原の保全・再生に取り組んでおり、これらの活動が礎となり、両地域は令和5年及び令和6年に自然共生サイトとして認定されている。

同氏による実践的な取組は、地域の緑化活動のみならず、緑化意識の醸成や人材育成にも大きく貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

き た か た し りつかみさんみやしょうがっこう
喜多方市立上三宮小学校

所 在 地	福島県 ^{き た か た し} 喜多方市
代 表 者	校長 ^{おおにし} 大西 ^{たけお} 健夫

＜功績の概要＞

同校は、昭和 50 年から「花いっぱい笑顔いっぱいの上三宮」をスローガンとして、地域の公共施設への花苗の提供や地域の花壇整備を通じた地域貢献活動を約 50 年間継続しており、緑化意識の醸成に貢献している。

児童が校内の花壇から種を集めて育てた花苗を公民館や郵便局等へ提供する活動のほか、図工の授業での花びらの活用や、校内の落ち葉を活用した堆肥づくりなど、校内の自然に直接触れる活動を通して、植物を身近に感じ、大切にしようとする心が育まれている。これらの活動は、全校一丸となって行われ、学年を越えた交流や、児童一人一人の緑化意識の醸成に貢献している。

地域の道路沿線での花壇整備活動は、児童と地域住民が協力して行われるなど、地域と交流することにより、児童が地域の一員である意識を高める役割も果たすなど、地域の活性化にも貢献している。

同校の地域に根ざした活動は、児童のみならず地域全体の緑化意識の醸成に貢献するほか、地域内でのコミュニケーションや児童を見守る意識を向上させ、地域全体の安全につながるなど相乗効果を発揮しており、その功績は高く評価されるものである。

かぶしきがいしゃ ふじおかじぎょうしょ
株式会社チノー藤岡事業所

所 在 地	群馬県 ^{ふじおかし} 藤岡市
代 表 者	事業所長 ^{へんみ} 辺見 ^{ひさし} 久

＜功績の概要＞

同事業所は、昭和 38 年の操業時より、緑豊かな工場を目指して緑化活動に取り組むとともに、敷地内の緑地等を地域住民や学生に開放し、環境学習・研究、憩いの場を提供することにより緑化意識の醸成に貢献している。

サクラの開花時期には地域の住民を招待して「さくら祭り」を開催するほか、敷地内の野球場等を地域活動のフィールドとして提供するなど、工場内の緑地を活用した地域貢献に継続的に取り組んでいる。

平成 23 年には、耕作放棄地に地域の里山環境を復元した「チノービオトープフォレスト」を地元大学と協同で整備する取組を行っている。以降、当エリアでは、里山環境の保全に加え、地域で絶滅の危機に瀕しているアサザやヤリタナゴ等希少種の保全を図るほか、地元大学と連携し、気温や水温、地温等の環境情報の計測を行い、ビオトープの育成管理の基礎データとして活用している。さらに、平成 30 年には環境学習館を新設し、社員や地域の児童等の環境学習の場として活用するほか、社員が敷地内のガイドや環境学習の講師を務めるなど、生態系保全や地域の環境教育にも貢献している。

同事業所における取組は、里山環境の保全や緑化思想の普及啓発及び子どもの環境学習のみならず地域に活力を与える役割も果たしており、その功績は高く評価されるものである。

とくてい ひ え い り かつどうほうじん わ こう みどり わ みず かい
特定非営利活動法人 和光・緑と湧き水の会

所 在 地 埼玉県和光市
代 表 者 代表理事 高橋 絹世

＜功績の概要＞

同団体は、平成 19 年に設立され、「身近な自然を知り、守り、活かす活動」をモットーに活動を続けており、地域の緑地の整備を実施するほか、地域の子ども等に向けた環境に関する講義の実施や会報誌の発行等により緑化思想の普及啓発を図るなど、地域の緑化推進に貢献している。

地域の緑地では、枯れた樹木の伐採や枝の剪定等を行う整備活動を行っているほか、和光市との協働事業として緑地や湧水地内の環境調査も実施しており、その結果は各種行政計画に取り入れられている。また、市民や学校を対象とした緑地観察会の開催や環境アシスタントとして小学校で実施している環境学習のサポートを行うなど、緑と共生する社会づくりに大きく貢献している。

これらの活動内容を、会報誌「VERDA」を通じて積極的に発信するほか、雨が湧き水になるまでを描いた絵本や紙芝居を制作し、地域の子どもへの読み聞かせや教育材料として活用されるなど、緑化思想の普及啓発や環境保全意識の醸成にも貢献している。さらに、市と連携して作成した「和光市自然環境マップ」は、学校等の公共施設へ広く配布され、マップを活用した市民や子ども向けの観察会の開催など、身近な自然の大切さを広める活動も展開している。

同団体による取組は、地域の緑化推進のみならず、環境教育や地域の交流促進にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

よこかわざんうんえいいんかい
横川山運営委員会

所 在 地	長野県岡谷市
代 表 者	委員長 小口 建二

<功績の概要>

同団体は、地域の森林保全と水源涵養を目的として昭和 30 年に設立され、地元の水源林である横川山の 1,750ha を所有し、長年にわたり植樹や植樹後の保育活動を継続して実施するほか、地域の小中学生を対象に森林学習を行うなど、地域の緑化推進に貢献している。

横川山の森林は江戸時代末期から地域の薪や炭の供給源として活用されてきた。同団体は、伐採が進んでいた横川山をフィールドに植樹等の取組を進め、地域の水源林として、森林の持つ公益的機能を発揮させるとともに景観的にも優れた森林を守り、育ててきた。平成 7 年には水を仲立ちとして森林と人との理想的な関係がつくられている森として「水源の森百選」に認定されている。

また、林道の手入れや水源林看板の設置、山火事防止と山を守る重要性を認識し意識を高めることを目的として、入山者に呼びかけを行う伝統行事「野火番^{のびばん}」を毎年行うほか、地域の小中学校を対象とした森林教室を実施し、森林の役割と大切さについて伝えるなど、地域の子どもへの環境教育にも貢献している。

同団体の活動は、地域の水源林を守り、公益的機能を発揮させるだけでなく、山に関わる人々の意識醸成や環境教育にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

とくてい ひ え い り かつどうほうじん もり たかつき
特定非営利活動法人 森のプラットフォーム高槻

所 在 地 大阪府高槻市
代 表 者 理事長 小 柿 正 武

＜功績の概要＞

同団体は、地域の「里」と「まち」との懸け橋として森林・里山を次世代に受け継いでいくことを目的とし平成 17 年に設立され、地元の森林の整備を継続して実施するほか、台風で被災した森林の復旧にも尽力するなど、地域の緑化推進に貢献している。

森林整備活動では、所有者の依頼に応じて、手入れが行き届かない森林の間伐作業を月 4 回の定例活動として設立以降継続して行っている。また、「間伐材を有効活用する」という方針のもと、間伐材で製作したベンチや花壇を地元公共施設に設置するほか、薪や炭を製造販売するなど「木の文化」を守り広げていく活動も行っている。さらに、地元の中学生と竹を伐採し、伐採した竹を利用して地域の竹垣の更新作業を行うなど地域と連携した活動も進めている。

平成 30 年の台風第 21 号による森林被害からの再生を目指し、被災森林において風倒木の処理を進めるとともに、植樹や植樹後の保育活動を継続して行っている。また、「市民共創の森協議会」に参画し、同協議会が主催する植樹事業において、一般参加者をサポートしながら毎年約 200 本を植樹している。

さらに、大阪府が実施する森づくり事業において参加者への指導役も担当するなど、地域の緑化推進のみならず、森林保全に対する意識の高揚や人材育成にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

あすかさとやま
飛鳥里山クラブ

所 在 地	奈良県 ^{たかいちぐんあすかむら} 高市郡明日香村
代 表 者	会長 中井 ^{なかいけんじ} 健二

<功績の概要>

同団体は、国営飛鳥歴史公園で活動するボランティア団体として、飛鳥地方の活性化や景観、自然環境等の保全に貢献することを目的に平成7年に設立され、公園内の森林整備や希少種の保護育成等を通して地域の緑化推進に貢献している。

設立以来、間伐等の森林整備や希少な山野草の保護・育成活動を活動の中心として継続的に取り組んでおり、平成16年には森づくりの専門チーム「森づくり隊」（現在は「里山づくり隊」）を結成し、毎月2回の定期活動を実施している。また、炭焼きやほだ木によるシイタケ栽培などの里山の風景づくりを通して、ランドマークである甘檜^{あまかしのおか}丘の景観保全にも貢献している。さらに、地域で希少種とされるササユリの保護・育成活動の結果、以前はほとんど見られなかったササユリが現在では500株以上生育するようになり、毎年開催される「ササユリの香る丘見学ツアー」では、訪れる人々に里山の景観や環境保全の大切さを伝えている。このほか、間伐材を活用したクラフト体験活動や、地元の小学校、幼稚園の環境学習への協力活動も実施している。

同団体の取組は地域の緑化活動のみならず、地域の緑化意識の醸成にも大きく貢献するなど、その功績は高く評価されるものである。

ひがしひろしましりつたかみ おかちゅうがっこう
東広島市立高美が丘中学校

所 在 地	広島県 ^{ひがしひろしまし} 東広島市
代 表 者	校長 ^{なかやま} 中山 ^{かつし} 勝志

＜功績の概要＞

同校は、平成3年の開校時から、草花の栽培管理や植樹等の活動が続けており、平成25年度からは学校緑化活動を教育活動の柱に据え、地域と共に行う緑化活動として「美しい学校づくり・地域づくり」に継続して取り組むことを通じて地域の緑化推進に貢献している。

校内の花壇整備や学校裏の竹林整備、地域の花壇整備を行うほか、落ち葉から作った堆肥による土づくりや学校裏の竹林で伐採した竹を活用した竹ぼうき作りなどの活動を生徒が中心となり実践している。

さらに、里山保全についての講演会の企画、地元の東広島市や近隣の大学が合同で開催し、里山の整備を行う「山のグランドワーク」への参加、校内の草刈りや剪定を行うサポーターの募集など、学校関係者だけでなく、地域と連携した活動にも積極的に取り組んでいる。

また、生徒が育てた花苗を地域の施設に寄贈するほか、身近な花や木の写真で作ったポストカードを地域住民に送る「フラワースマイルキャンペーン」を継続的に実施し、緑化思想の普及啓発にも取り組んでいる。

同校の取組は、地域の緑化活動のみならず地域住民への緑化意識の醸成にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

えひめけんりつかみうけなこうとうがっこう
愛媛県立上浮穴高等学校

所 在 地	愛媛県 ^{かみうけなぐん く ま こうげんちょう} 上浮穴郡久万高原町
代 表 者	校長 ^{かわもと やすし} 川本 康志

<功績の概要>

同校は、昭和 16 年に開校し、林業の実践的な先端教育にとどまらず、授業で培った知識を活用した課外活動にも積極的に取り組み、多様な方法で幅広い年齢層に働きかけながら地域の緑化推進に貢献している。

地元の森林所有者と連携し、学校林以外でも植樹を行うほか、地域の幼稚園や小学校等への森林・林業に関する出前授業や、育てた花苗の老人ホーム等への配布、校外ボランティアとして樹木の剪定など多岐に渡る活動を実施している。地域行事である林業まつりや竹灯籠まつりにも積極的に参加し、地域との交流を深めながら緑化意識の醸成に貢献している。林業まつりでは、日頃の活動発表にとどまらず、木のおもちゃの体験コーナーの運営など木材利用の拡大と木育活動の推進を図っている。竹灯籠まつりでは、竹の伐採から加工までを生徒が行った竹灯籠を用意し、資源の有効活用についての普及啓発だけでなく、地域の活性化にも一役買っている。さらに町内産のスギを活用して楽器を作るプロジェクトチームを有志で結成し、楽器を作るイベントを小学校や商業施設等で開催するほか、日頃の実組をホームページや SNS で積極的に発信しており、幅広く緑化意識の醸成に貢献している。

これらの実践的な活動により、林業関係を就職先に選ぶ生徒も多く、緑化活動の推進のみならず、次世代の林業を担う人材の育成にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

やまでらがわ
山寺川をきれいにする会^{かい}

所 在 地	福岡県 ^{きたきゅうしゅうし} 北九州市
代 表 者	会長 松本 ^{まつもと} 克彦 ^{かつひこ}

<功績の概要>

同団体は、地域の住宅街を流れる山寺川の河川環境を守る事を目的として平成11年に結成され、川沿いの環境整備や花壇整備などの活動を行うほか、河川環境等に関する学習会を実施するなど地域の緑化推進に貢献している。

整備活動の実施に当たっては、広く地域住民にも参加を呼びかけ、川沿いの古くなった樹木の伐採や枝の剪定を行うほか、花壇への花苗の植栽や植栽後の整備を定期的の実施しており、現在では年間活動者が延べ500人を超えるなど地域活動として定着している。また、地域の緑化活動だけでなく、見守り活動も行っており、子どもが安心して自然に触れ、親しむことができる場を確保するなど、幅広く地域に貢献している。

これらの活動により、周辺地域には数百匹のホタルも生息するようになり、飛翔時期にはたくさんの地域住民が川辺を歩きコミュニケーションをとるようになるなど、地域への愛着の高まりや地域コミュニティの活性化に大きく貢献している。

同団体の活動は、河川周辺の緑化推進活動のみならず地域の交流を促進する役割も果たしており、その功績は高く評価されるものである。

けやき通り^{どお はってんきせいかい}発展期成会

所 在 地	福岡県 ^{ふくおかし} 福岡市
代 表 者	会長 ^{おおい} 大井 ^{みのる} 実

<功績の概要>

同団体は、一般国道202号線に所在する、通称「けやき通り」沿線の環境保全及び活性化を目的として平成5年に設立された。自然と調和し、市民に親しまれるけやき通りを後世まで受け継がれる美しい街並みにするため、花苗の植栽及び植栽後の管理等を行い、地域の緑化推進に貢献している。

プランターの設置と花苗の植栽・整備を定期的に行うほか、地元の小学生と一緒に街路樹としてケヤキを植え替える植樹祭の開催や、環境保全に関する授業を実施するなど、地域の緑化推進活動を行うとともに、地元の子どもを対象とした環境教育も積極的に行っている。

同団体の活動は、住民参加型の道路沿線の緑化や景観美化活動のモデルケースとされているほか、平成13年には、道路を管理している国土交通省福岡国道事務所と、植栽木の剪定や草花の手入れ等の地先管理の一部を委任する「ボランティア・サポート・プログラム」の協定を福岡県内で初めて締結した。その中で「ととのえる」「つなぐ」「つくる」をキーワードに地元の自治体等と連携しながら道路沿線地域の景観及び環境保全活動に取り組んでいる。

同団体によるこれらの取組は、地域の緑化推進のみならず、ボランティア活動のモデルケースとされることによる波及効果も期待され、その功績は高く評価されるものである。

すいげん もり し み ん かい
水源の森づくりをすすめる市民の会

所 在 地 宮崎県宮崎市
代 表 者 会長 倉爪 徹

＜功績の概要＞

同団体は、宮崎県を流れる大淀川・清武川流域に豊かな水源の森づくりを進めることを目的に平成8年に設立され、広葉樹等の植樹や育樹活動のほか、地域住民を対象とした講演会の開催や他団体と連携した活動など、地域内外の緑化推進に貢献している。

平成9年から、都城市及び宮崎市にある国有林等を団体の活動フィールドとして借り受けて「わくわくの森」と名付け、広葉樹の植樹や育樹活動を継続し、豊かな水を蓄える森を守り育ててきた。現在は綾町内で、会員の手で種から育てた広葉樹の苗木約2,000本を植樹した、新たな「わくわくの森」で育樹活動を継続している。さらに、そこでは森の中に奏者らを招き、音楽を鑑賞する「森のコンサート」を開催するなど、参加者同士が交流できる場の創出にも取り組んでいる。

また、綾町にある日本最大級の照葉樹林を保護する「綾の照葉樹林プロジェクト」に参加し、森の植生調査やイベントのサポートを行うなど、他団体と連携した取組も積極的に行っている。

さらに、森の役割や森と人との関わりを伝えるため、環境問題等の講演会や、地域の子どもを対象とした環境教育の実施に加え、活動内容をSNSで発信するなど、地域内外の緑化意識の醸成にも貢献している。

同団体の取組は、地域の水源を守ることだけでなく、地域全体の緑化意識を高める役割も果たしており、その功績は高く評価されるものである。